



# 三渚保育園 園だより



March 2024

3月。いつもと変わらない時間が流れるのに、ここ日本では一つの区切りを表す季節ですね。今年もまた、素晴らしい23名が巣立っていきます。今少しずつ、大人達は卒園に向け準備を始めています。卒園証書、式次第、卒園記念は何にしよう・・・頭と体はこの子達を送り出す準備をしているのに、心では中々実感しないのが本当のところ。子ども達と変わらない毎日を過ごすものだから、季節がめぐり23名との時間にゴールがある事がピンと来ていないのかもしれない。

さて、この23名の子達がばら組の頃。担任と話し合い決めたことがあります。それは「何かあっても、子ども達の声を拾い続ける事。」。それまで、幼い子達には大人達が教える事が保育だと考えていた我々は、一度立ち止まって子ども達を探求してみようよ、そしたらきっともっと子ども達のことが面白くて、保育が面白くなるはずだよ。卒園迄自分達が責任を持つと腹をくくれば、誰かの目を気にして「こういう姿に育てなきゃ!」「こういう事が出来るようにしなくちゃ!」ではなく、この子達の本来の有能さを大切にしたい日々を送れるんじゃない??それが子ども達の本来の学びと成長なんじゃない??と。今振り返ると懐かしい。けれど、それから我々は目の前の子達に様々な事を教えられながらここまで来ました。この園の保育の変化はこの子達と共にあります。ダンゴムシに想いを馳せ「虫にも家族がいる」事を一緒に考えたり、節分の鬼にも優しさがある事に気付かされたり、落ちたごみはモンスターだけどアイデア次第でごみは大きな作品になり輝きだすことだったり。様々な事に気付かせて貰ったのがこの子達の日々です。そして、その気づきを得続けるために、我々が大切にしたのは「対話」です。「会話」じゃなく「対話」をしようと約束しました。会話は「こうして!」「わかった!」とか。対話「あなたは どう思う?」「こう思う」「そう考えるんだね。」のイメージ。違う考えや切り口を知り、ハッと気づいたり考えの幅が広がったり、時には理解するのに時間がかかる事もあって、ふと「あれ?あの時言ってたことってこういう事か!」と腑に落ちる瞬間がやって来ることもある。

「大人と子ども」「大人と大人」も対話を。それが私達が譲りたくないこだわり。とにかく、相手の顔を見て「知りたい!理解したい!」という火を心にもって話を紡ごうとしたらきつといいことが待っている。そんな想いでお互いを尊重した対等な関係を築きたい一心でした。

さあ、人は成長します。幼ければ、知識が少ない分、例えば「赤」と言えば相手も「おなじ赤」を想像するでしょう。これから成長し多くの経験を重ねれば、「赤」が単純に「おなじ色」を示さないこともある。「熱意」「燃える」ことを意味するかもしれないし、「辛さ」や「痛さ」を表しているかもしれない。そんな時は絶対に忘れないで欲しい、相手を知ろうとすれば世界は広がるしもっと面白く感じるはずだよ。ありがとう、豊かな時間を。 ゆうこ。

## クラス目標 ～1か月大切にしたいこと～

### たんぽぽ組

- ・進級を見越し、1歳児クラスの保育室に慣れ親しむ。
- ・生活の流れを知り次の行動に見通しをもって自分からやろうとする。

### もも組

- ・散歩や戸外遊びを通して春の植物や生き物に触れ、春の訪れを感じる。
- ・進級に向け、期待や喜びを持ち楽しく過ごす。

### ばら組

- ・戸外でのびのびと遊びながら季節の移り変わりに触れ、春の訪れを感じる。
- ・基本的な生活習慣が身に付き、自分で出来る事の喜びを味わいながら意欲的に取り組む。

### うめ組

- ・異年齢児とのかかわりの中で進級することに憧れや期待を持つ
- ・春の自然の変化に気付き、発見した草花や植物に興味を持つ。

### すみれ組

- ・お友達と思いや考えを伝え合い、様々な活動に共通の見通しを持って取り組む
- ・友達や5歳児とのかかわりを深めながら相手に言葉や自分なりの表現で気持ちを伝えようとする。

### ゆり組

- ・お互いの個性を認め、それぞれが自己を発揮し多方面に興味を広げる
- ・充実感を持って園生活を送り、自らの成長に誇りを感じながら、入学への喜びと期待を持つ

### ● 3月の行事 ●

1日(金) 英語レッスン

4日(月) 保育参観

5日(火) 避難訓練

8日(金) 英語・ゆり3園交流会

11日(月) お弁当の日

12日(火) ゆり組レールキッチン招待

15日(金) 英語・うめ体操

18日(月) 制服渡し16:30~19:00

20日(水) 祝・春分の日

21日(木) お誕生会

22日(金) お別れ会

26日(火) 卒園式(ゆり組のみ)

27日(水) 修了式

### ■ご協力を!■

3月25日(月)は、15時迄のお迎えにご協力ください。翌日の卒園式で子ども達をしっかり見送る準備を行いたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

### ■レールキッチン5周年■

3月23日(土)はレールキッチンの5歳の誕生日。土曜日だけお時間があるご家庭は一緒に手を振ってお祝いしましょう!

## 5年を振り返る

裕：卒園だねえ。  
折：実感わかない。まだ卒園させたくないっ！笑  
2人：まだ歩き始めたころから5年間だからね。  
裕：固定概念に捉われずこの子達と何が出来るかなって考える5年間だったね。  
2人にとってこの子達って、それまで担任した学年とどう違った？  
酒：ガラッと変わりましたよね。まず自分の考えが変わりました。それまでこの学年はこうあるべき！三潯保育園としてこの子達をある一定のステップアップをさせなきゃという固定概念があった。そうすることで、子ども達は小学校に上手に上がっていきけるのだと思っていた。今回はそこを一つずつ紐解いて、上手く違う方向性にもっていったんじゃないかな、と。  
裕：それまでは保育園と大人を見て保育をしていたかもしれない。今回の5年間は子ども達を見続けてきた月日だったね。  
折：よく話をしましたもんね。よく対話しています。  
裕：もしかしたら、そこが一番これまでの学年と違うのかもね。  
折：子どもにどうしたい？って尋ねる事も多いし。子ども達も「どうしたらいい？」って聞いてくる。こうしたい！っていう意見も含めて。  
酒：例えば担任2人が話し合っ物事決めてる時にも「何話してるの？」って。自然に子どもが椅子を持ってきて隣に座って会話に参加してきますしね。  
折：だから、色んな書類とか漢字で書かれるのが嫌なんですよ。自分達の事なのに、読めないのが嫌だって。  
裕：一つのチーム。同じメンバーって感覚かもね。  
折：先生、生徒って感じでもなく、お父さんお母さんっていう感じでもなく。  
裕：そういう関係性が出来たのは、やっぱり担任が子ども達の想いをくみ取り、意思を尊重することを常に大切にしてきたから築けたんでは？  
酒：最初はどうしてもそれまでの固定概念がありましたね。葛藤はありました。  
裕：あ！ばら組の時に大事な話し合いしたじゃん！  
酒：めっちゃ覚えてますよ。あれが一番デカかった転機かも。  
裕：その時、担任達が言ったのは「クラスが上がる時に、もし別の担任が引き継ぐのであれば、『こんなことも出来ないの？』って言われたいために・・・」って。今となっては笑い話だけど。その時、私が伝えたのが「卒園まで自分が責任を持つ！」て腹をくくったら、同じ保育する？って聞いたんだよね。その時、担任は天井見ながら「いや、違うかもしれない」ってつぶやいた、そこからだよ。じゃ、どんな保育する？って子ども達のことを見つめだしたのは。  
酒：そうですね。それからダンゴムシの活動もはじまった。その時は、子ども達がどんなところに興味を持って、どこにフォーカスしていったらいいんだろうって話し合いをしましたね。そこで、ダンゴムシに興味を持っているっていうところから保育が始まったんだけど、当時は皆まだ小さかった。ニコニコして手のひらのダンゴムシを自分達に見せに来てくれるんだけど、そのほとんどがつぶれていて。大人達は「どうやったら力加減を伝えられるんだろう？」って頭を悩ませていた。  
裕：そこで、「アプローチ変えてみない？」って話し合った。命の大切さを一緒に考えてみるの？って。するとダンゴムシと自分たちの家族を重ねて考え始めた。そして、1カ月後、ダンゴムシがつぶれてないことにふと気づいたんだよね。そこから子ども達が自ら学ぶ姿を大切に始めたんだよね。きつと。

裕：そこから派生して「ダンゴムシメジャー」も作り始めた。数を理解するのに、ドリルから始める必要ある？って、そんな感じで子ども達の興味関心に沿って、色んなチャレンジをして試行錯誤した5年間だった。  
折：今でも忘れない。子どものキラッとしたとした瞬間。何かを発見したときとか。雨の日散歩もしましたね。雨だと室内で過ごすっていう固定概念を覆して。だけど、雨だからこそその発見をした時の子どもの顔も見つけられた。  
裕：こんな毎日を過ごした子達だけど、小学校の先生になんて伝えたい？  
酒：自分自身の考えをきちんと持っているし、言える子達ですって伝えたい。  
折：そう。それに必ずあの子達はプラスアルファをしてくる。自分達で「もっと」を加えてくるよね。  
酒：自分達で考えてどうにかしたいって想いが強い子達。大人が準備しすぎると物足りなさをアピールしてくるから。  
2人：自分達の話聞いて！っていう。一方通行は嫌がりますね。  
裕：それ、「対話」の成果じゃない？  
酒：行事前とかちょっと指示的な会話が増える。だけど、そこに自分達の意見をのせてくる。先生はこう言うけど、あたしたちはどうしたらいい？って話を繋げてくる。必ず言葉にしてきます。  
裕：大人になって必要なスキル全部そこじゃない？何か試験に合格してます！とか、資格持ってます！とか、その前に自分のアイデアとか実行力とか、困難をどう乗り越えるか？チームで動くときどういう役割を担うのかとか、推進力はあるのか？そう思うと、交渉したり、他人を思いやれるこの子達を「よーし！イケイケ！その調子！」って卒園する姿に安心して手を振れる気がするね。  
折：それに、よく考えているし、他人のことも思いやってる。  
裕：もも組の時にさ、今まで世間的に「手を焼く子」と認識されがちな子を、じっくり見つめてみたら、その子の有能性に気付いて、大人にはない感性の中で学んでいるんだって気付いて、そこから始まった子ども達へのリスペクトが今も続いているよね。さて、最後に「子ども達へメッセージ」ある？  
折：自分達のやりたいことをしっかり伝えて大きくなって欲しいな。大人になるってことじゃなく、キラッとした目のまま、優しい人でいて欲しい。友達がいるってことも忘れないで。  
酒：周りを見たらうずくまっている人や困っている人がいるかも知れない。今のまま、前だけじゃなくて後や横も気付いて周りのことを考える人でずっといて欲しい。  
裕：一年生ってまた幼くなるイメージだけど。6歳から7歳になることを大切にしたいよね。さ、「保護者の皆さんへメッセージ」はある？  
折：優しくかったです。私達のドタバタに付き合ってくれた。眼差しが優しくかった。だから、あの子達も優しいんだと思う。伝えたいのは、ありがとう、ですね。  
酒：歴の長い保護者も多くて、きっと戸惑う事も多かったと思うんです。以前の保育と違ってきているから。お互いが空気重い時期もあったけど我々を理解しようと努めて下さって有難かった。一緒に「子ども達の為ならば」って。それが子ども達伝わって今の雰囲気があると思うから。  
裕：曲げられなかった我々の想いがあったね。それは子どもが育つ先を想像したときに。「この子達の為にベストを尽くさせて！お願い！」って言う炎が消えなかったね。本当に感謝だね。  
折：伝えたいのは、ドタバタさせちゃったけど、この子達、絶対大丈夫って！こと。